

■ MATSUMOTO Kenji 松本 健司

MEXT (科研費)

1. 微生物型シデロフォアをモデルとした植物用アルカリ耐性鉄供給剤の開発 (代表:松本健司) 基盤研究(C), 平成27年度~29年度, 3,600千円. 代表:今年度獲得直接経費(800千円)

Books (著書)

1. 松本健司, 「未来の資源に向かってー高知大学におけるレアメタルをキーワードとした研究についてー, "生物における金属元素の役割", 中島出版, 68-75 (2017)

Reports & Others (報告書)

1. 松本健司, 研究紹介, SPACC レター, 2月号, 3 (2017)

Conference Presentations (学会・講演会発表)

International:

1. Matsumoto, K., Nishiyama, N., Terauchi, T., Enami, T., Tsunemitsu, Y., Ueno, D., Influence of the properties of hydroxamate-type artificial siderophores on the recovery from iron starvation in grape tomato, The 24th International SPACC Symposium, Auckland, New Zealand (2017/11/22-25)

Domestic:

1. 佐藤圭, 米村俊昭, 松本健司, ピリジン部位を有するアルキル架橋型ビス (イミダゾールチオン) 配位子ー金属錯体の合成と性質, 錯体化学会第 67 回討論会, 札幌 (2017/9/16-18)
2. 橋本俊樹, 立石貴大, 米村俊昭, 松本健司, こはく酸エチル部位を有するトリヒドロキサム酸型人工シデロフォアの合成と性質, 錯体化学会第 67 回討論会, 札幌 (2017/9/16-18)

Other Details (その他)

[Host of congress (学会・シンポジウムなどの開催)]

1. 第 5 回高知大学ー高知工科大学ジョイントセミナー, 高知工科大学(2017/6/17) [世話役, 県内, 74 名]

[Outside Comittee (学外委員)]

1. 高知化学会事務幹事

[Comittee Activity within the cluster (部門内での活動)]

1. 基礎化学系プロジェクトリーダー
2. 特別教育プログラム委員

[Regional Contribution (地域貢献活動)]

(実験講座)

1. 松本健司, 今村和也, 光る錯体と光触媒, 高知大学理工学部化学生命理工学科オープンキャンパスサイエンスラボ, 高知大学 (2017/8/5).
2. 松本健司, 発光性 Cu(I)、Ag(I)錯体の合成, 高知小津高等学校 SSH「物質化学体験ゼミ」無機化学分野実験, 高知大学 (2017/12/9).

[Activity on International Exchange (国際交流活動)]

1. ハノイ科学大学化学学科(ベトナム)訪問 (2017/9/24-30).

■ YONEMURA Toshiaki 米村 俊昭

MEXT (科研費)

1. キラル増殖型集積化反応を利用した環境応答機能発現メカニズムの解明と応用 (代表: 米村俊昭) 基盤研究(C), 平成27年度~30年度, 1,100千円. 代表:今年度獲得直接経費(*分担者への配分を含める)
2. 特殊な分子捕捉・反応場を利用した電気化学的水素生成触媒システムの開発 (代表: 小澤智宏) 基盤研究(C), 平成29年度~31年度, 150千円. 分担:今年度に配分された直接経費

Any Other Funds (その他の研究経費)

[Joint Research (共同研究)]

1. 抗カビ性を有する抗菌性無機-有機ハイブリッド化合物のワックス等分野への適用可能性検討 (代表: 米村俊昭), (株)リンレイ, (株)エム・アイ・シー, 360千円.

[Scholarship Donations (奨学寄附金)]

1. 社会で認められる試薬管理システムの導入に対する研究助成, 米村俊昭, 500千円.

[Consigned Research (受託事業)]

1. 光学異性体の識別に挑戦! ~目や鼻だけでなく最新装置を使って分子を見分けよう~ (代表: 米村俊昭) 学術振興会, 研究成果の社会還元・普及 ひらめき☆ときめきサイエンス~ようこそ大学の研究室へ~ KAKENHI, 299千円.

Books (著書)

1. 米村俊昭, 未来の資源に向かって, 金属イオンと有機物を組み合わせて作る先端材料—化学で役立つコンプレックスとは— (高知大学レアメタルプロジェクト研究メンバー共著), 中島出版, 136-143 (2017)

Conference Presentations (学会・講演会発表)

Domestic:

1. M. Nakashima, M. Matsubara, T. Ozawa, T. Yonemura, Syntheses and Polymerization Reactions of Optically Active Cobalt(III) Complexes, 日本化学会第97春季年会, 横浜 (2017/3/17)

2. 石井亜澄, 福本翔平, 米村俊昭, 銀(I)チオレート錯体の合成と固体発光性の発現, 第67回錯体化学会討論会, 札幌 (2017/9/16)
3. 松原萌, 米村俊昭, 光学活性なチオプロニンコバルト(III)錯体の合成と銀イオンとの多核化反応, 日本化学会中四国支部大会, 鳥取 (2017/11/11)

Other Details (その他)

[Outside Committee (学外委員)]

1. 科学の甲子園高知県大会実行委員
2. 科学の甲子園高知県大会審査委員長
3. 高知県資格試験アドバイザー

[Committee Activity outside the cluster (部門選出の全学委員)]

1. 総合科学系教授会委員

[Regional Contribution (地域貢献活動)]

1. 津名高等学校出前授業, 鏡像異性体について考えよう, (2017/3/9).
2. 宝塚西高等学校出前授業, 身近なサイエンス&テクノロジー ~鏡像異性体について考えよう~, (2017/12/15).

[Activity on International Exchange (国際交流活動)]

1. 中国常州大学(大学間交流協定)交換留学生3名の受け入れ

[Fund within the University (学内の研究経費)]

1. 文部科学省特別経費「海洋性藻類を中心とした地域バイオマスリファイナリーの実現に向けた新技術の創出」

MEXT (科研費)

1. 発達障害の早期診断と発症要因の解明に関する研究(代表:蒲生啓司), 挑戦的研究(萌芽)(平成29~31年度), 3,300千円(通算470万円)
2. 科学技術リテラシーを有する先導的教員養成システム構築に関する実証的研究(代表:道法浩孝), 基盤研究(B)(一般)(平成29~31年度), 1,000千円(通算530万円)

Any Other Funds (その他の研究経費)

【受託事業費】

1. 平成29年度全国河川教育大学間ネットワーク構築事業(代表:蒲生啓司), 河川財団(平成29年10月~30年3月), 400千円.

【学内競争的経費】

1. 『地産地生塾』を活動拠点とする地域資源・地域人材活用型の教員資質醸成プログラム(代表:蒲生啓司), 学長裁量経費(平成29年度), 600千円.
2. 大学院生の理科教育力向上に資する地域の教育課題に応える指導力を持ったCST養成プログラムの研究(代表:遠藤隆俊), 研究科長裁量経費(平成29年度), 150千円.

Journal Publications (論文)

1. 守川耕平, 橋田 諭, 水田晶容, 渡邊浩幸, 田中伸幸, 蒲生啓司, 高知県産ショウガの末梢血流改善効果一品種別冷え症改善の検証を中心に-, **東海学院大学研究年報**, **2**, pp.87-93 (2017).
2. 西脇芳典, 石井健太郎, 蒲生啓司, 顕微鏡観察と金属イオンの系統分離を用いた自動車塗膜の理科教材への応用, **化学と教育**, **65** 巻 12 号, pp.646-647 (2017).
3. 楠瀬弘哲, 国沢亜矢, 中城 満, 蒲生啓司, 自己の思考を自覚する子どもを育成するための具体的手法の開発ー誤概念からの脱却による「てこの規則性」の獲得ー, **高知大学学術研究報告**, **66**, pp.11-17 (2017).

Conference Presentations (学会・講演会発表)

Domestic:

1. 横田康長, 吉本真里, 蒲生啓司, 化学教材を利用して基礎的な理論を理解させる補助実験の工夫, **2016 年度高知 CST養成・活動事業 理科教育シンポジウム**, 高知大学 (2017年1月21日).
2. 吉井容子, 楠瀬弘哲, 中城 満, 草場 実, 蒲生啓司, 児童の思考の深まりをめざした教師の働きかけのありかたー「見取り・ととのえる」を視点として-, **2016 年度高知 CST養成・活動事業 理科教育シンポジウム**, 高知大学 (2017年1月21日).
3. 楠瀬弘哲, 井上美貴, 中城 満, 草場 実, 蒲生啓司, 理科授業力向上を育む理科教員養成カリキュラムの実施と評価ー高知CST養成・活動事業における受講プログラムー, **2016 年度高知 CST養成・活動事業 理科教育シンポジウム**, 高知大学 (2017年1月21日).
4. 蒲生啓司, 三井真一, Motopsin欠損マウスの血清アミノ酸分析, **第65回質量分析総合討論会**, つくば国際会議場(2017年5月17-19日).
5. 蒲生啓司, 明石拓実, 西脇芳典, 三井真一, モトプシン欠損マウスを用いた社会行動変化と血清中アミノ酸濃度との関係に関する研究, **第77回分析化学討論会**, 龍谷大学(2017年5月27-28日).

6. 楠瀬弘哲, 国沢亜矢, 中城 満, 蒲生啓司, 自己の思考を自覚する児童を育成するための具体的手法の開発IIIー誤概念からの脱却による「てこの規則性」の獲得ー, **日本科学教育学会**, 福岡教育大学 (2017年8月29-31日).

7. 蒲生啓司, 道法浩孝, 理科と技術の相補的連携に基づく科学技術教育のカリキュラム研究, **日本教科教育学会第43回全国大会**, 北海道教育大学 (2017年9月9-10日).

8. 西村 舞, 明石拓実, 三井真一, 蒲生啓司, 発達障害モデルマウスを用いた社会行動異常と生体内物質の関係についての研究, **日本化学会中国四国支部大会**, 鳥取大学 (2017年11月11-12日).

9. 牧野千尋, 守川耕平, 蒲生啓司, ショウガ搾汁のコラゲナーゼ阻害活性について, **日本化学会中国四国支部大会**, 鳥取大学 (2017年11月11-12日).

10. 武内大樹, 土井原崇浩, 蒲生啓司, 没食子インクの経年変化および支持体の経年劣化メカニズムの解明, **日本化学会中国四国支部大会**, 鳥取大学 (2017年11月11-12日).

11. 西田景太, 前田武晴, 入福浩明, 美濃厚志, 蒲生啓司, 花粉の大気環境化学物質に対する吸着性に関する研究, **日本化学会中国四国支部大会**, 鳥取大学 (2017年11月11-12日).

12. 山崎雄馬, 蒲生啓司, 水熱ホットプレス環境下における生命起源物質に関する研究, **日本化学会中国四国支部大会**, 鳥取大学 (2017年11月11-12日).

13. 大野敬太, 蒲生啓司, 唾液成分から見る運動や環境によるストレス変化, **日本化学会中国四国支部大会**, 鳥取大学 (2017年11月11-12日).

14. 安井正仁, 楠瀬弘哲, 蒲生啓司, 少人数学級における主体的に学ぶ力を育てる理科学習の指導に関する研究, **日本理科教育学会四国支部会報**, 第35号, p.17-18 (2017), 鳴門教育大学 (2017年12月16日).

15. 宮本彩智, 他 13 名, 永野玖実, 橋口英典, 岩中 悠, 西直暉, 難波賢太, 武内大樹, 高屋聖卓, 坂拓実, 入木祐太, 國府俊一郎, 普喜満生, 北川 晃, 道法浩孝, 蒲生啓司, 理科と技術科を融合した教員養成カリキュラムの実践的研究(1): 科学技術教育コース「科学技術教育総合演習」の授業実践, **日本理科教育学会四国支部会報**, 第35号, p.19-20 (2017), 鳴門教育大学 (2017年12月16日).

16. 横田康長, 吉本真里, 蒲生啓司, 高知県理科思考力問題集をもちいた電解質水溶液の理解, **日本理科教育学会四国支部会報**, 第35号, p.59-60 (2017), 鳴門教育大学 (2017年12月16日).

Other Details (その他)

【報告書】

1. 平成28年度高知 CST 養成・活動業務成果報告書, 高知 CST 養成・活動実施委員会 (平成29年3月).

【学外委員】

1. 日本理科教育学会四国支部長 (平成29年度).
2. 高知県環境活動支援センター事業実施委託業務プロポーザル審査委員会委員長 (平成29年度).

【部門選出の全学委員】

1. 地域連携推進センター知的財産専門委員会委員

【地域貢献活動】

1. 平成29年度土佐塾高等学校夏夏季サイエンス講習会, 「セパレーションサイエンス(分離科学)から見る化学種の世界ー『水のきれいさ』と『植物色素』を「分離」して見るー」(2017年7月27-28日).
2. 『高大連携科学系研究フォーラム』実行委員長 (2017年11月13日).

3. 『青少年のための科学の祭典』（2018年2月12日実施）
実行委員（2017年度）.
4. 『地産地生塾』を活動拠点とする地域資源・地域人材活用型
の教員資質醸成プログラム（2017年5月～2018年3月）.

■ IZUMI Masayuki 和泉 雅之

MEXT (科研費)

高知小津高校「大学出前講義」, (2017/6/22)

1. セレンの特異的な反応性を利用したユビキチン化糖タンパク質プローブの新規合成法 (代表: 和泉雅之) 基盤研究(B), 平成29年度~32年度, 3,900千円.

Any Other Funds (その他の研究経費)

[Consigned Research (受託研究)]

1. 糖鎖構造の可変を可能にする糖タンパク質の精密半化学合成とその品質分析技術の開発 (代表: 梶原康宏、分担: 和泉雅之) AMED, 1,818千円.

[Scholarship Donations (奨学寄附金)]

1. 内藤記念科学奨励金・研究助成, 内藤記念科学振興財団, 1,137千円
2. 奨学寄付金, (株)小林製薬, 95千円

Journal Publications (論文)

1. Izumi, M., Kuruma, R., Okamoto, R., Seko, A., Ito, Y., Kajihara, Y., Substrate Recognition of Glycoprotein Folding Sensor UGGT Analyzed by Site-Specifically ¹⁵N-Labeled Glycopeptide and Small Glycopeptide Library Prepared by Paralled Native Chemical Ligation, *J. Am. Chem. Soc.*, 139, 11421-11426 (2017)
2. Orii, R., Sakamoto, N., Fukami, D., Tsuda, S., Izumi, M., Kajihara, Y., Okamoto, R., Total Synthesis of O-GalNAcylated Antifreeze Glycoprotein using the Switchable Reactivity of Peptidyl-N-pivaloylguanidine, *Chem. Eur. J.*, 23, 9253-9257 (2017)

Conference Presentations (学会・講演会発表)

Domestic:

1. 和泉雅之, 糖タンパク質のケミカルバイオロジー, グリーンサイエンス講演会 2017, 高知 (2017/6/30)
2. 和泉雅之, 井上萌恵, Ngyen, M. H., 岡本亮, 小林夕香, 上野泰, 岡本裕樹, 林文晶, 久富修, 梶原康宏, 化学合成したコアフォース認識レクチン PhoSL の構造解析, 第36回二本糖質学会年会, 旭川 (2017/7/19-21)
3. 和泉雅之, 化学合成した糖タンパク質プローブを利用したフォールディングセンサー酵素 UGGT の基質認識機構の解明, 第1回複合科学研究会, (2017/9/24)

Other Details (その他)

[Regional Contribution (地域貢献活動)]

■ MORI Masanobu 森 勝伸

MEXT (科研費)

1. 閉鎖性山岳湖沼の放射性セシウム濃度の下げ止まり現象の原因究明(代表:新井肇) 基盤研究(C), 平成29年度~31年度, 260千円.
2. 完全な再生可能資源化を目指したリグニンからポリアセニクファイバーへの展開技術 (代表:森勝伸) 基盤研究(B), 平成29年度~32年度, 5,900千円.
3. 中国土壌の重金属汚染調査と農作物への影響評価 (代表:板橋英之) 基盤研究(B), 平成29年度~32年度, 800千円.
4. 分離から薬剤合成までのシームレスな⁶⁴Cuの高速分離精製プラットフォームの開発 (代表:森勝伸) 挑戦的研究(萌芽), 平成29年~平成31年度, 2,400千円.

Any Other Funds (その他の研究経費)

[Consigned Research (受託研究)]

[Joint Research (共同研究)]

[Scholarship Donations (奨学寄附金)]

1. イオンクロマトグラフィーに関する新規開発, 東ソー株式会社, 50千円.

[Fund within the University (学内プロジェクト経費)]

Journal Publications (論文)

1. Enhanced aqueous adsorption and photodecomposition of anionic organic target by amino group-modified TiO₂ as anionic adsorptive photocatalyst, Tsuyoshi Sugita, Ken-ichi Kobayashi, Kentaro Kobayashi, Taiki Yamazaki, Kengo Fujii, Hideyuki Itabashi, Masanobu Mori*, Journal of Photochemistry and Photobiology A: Chemistry. 356 (2018) 71 – 80. [I.F. = 2.625]
2. Radiocesium dynamics in aquatic ecosystem of Lake Onuma on Mt. Akagi after the Fukushima Dai-ichi Nuclear Power Plant accident, Kyuma Suzuki*, Yumi Onozeki (Yuasa), Shun Watanabe, Yasunori Yamashita, Hajime Arai, Hideki Tanaka, Toshihiro Kuge, Masanobu Mori, Shoichi Aizawa, Seiichi Nohara, Yuichi Iwasaki, Yoshitaka Minai, Yukiko Okada, Seiya Nagao, Kin-ichi Tsunoda, Science of the Total Environment. 622 – 623 (2018) 1153 – 1164. [I.F. = 4.900]
3. 逐次抽出法による焼却灰中の重金属の溶出特性評価, 森 勝伸*, 寺澤 侑哉, 板橋 英之, 工業用水, 645 (2017) 48-57.
4. 河川伏流水に生息する地下水生生物の生息実態とその環境因子に関する研究, 松本 健作*, 森 勝伸, 下村 通誉, 小野寺 光二, 南雲 洋平, 水工学論文集 Annual journal of Hydraulic Engineering, JSCE 61, 1117-1122, 2017.
5. 福島第一原子力発電所事故により赤城大沼一帯に降下した放射性セシウム, 相澤省一*, 森 勝伸, 小池 優子, 角田欣一, 分析化学 (Bunseki Kagaku) 66 (2017) 270 - 280. [I.F. = 0.195]
6. Determination of water quality degradation due to industrial and household wastewater in the Galing River in Kuantan, Malaysia using ion chromatograph and water

- quality data, Daisuke Kozaki *, Norhasmira Idayu Binti Harun, Mohd Hasbi Bin Ab. Rahim, Masanobu Mori, Nobutake Nakatani, Kazuhiko Tanaka, Enviroments (Open access), 4(2) (2017) 35. (doi:10.3390/environments4020035).
7. 8.赤城大沼のワカサギにおける放射性セシウムのサイズ効果と挙動, 鈴木 究真*, 渡辺 峻, 小野閑 (湯浅) 由美, 新井 肇, 田中 英樹, 久下 敏宏, 角田欣一, 森 勝伸, 野原 精一, 岡田 往子, 薬袋 佳孝, 分析化学 (Bunseki Kagaku), 66 (2017) 195-200. [I.F. = 0.195]
8. 9.群馬県神流川上流域の森林の窒素飽和現象に関する研究, 吉井 咲夢, 飯島 明宏, 森 勝伸*, 板橋 英之, 分析化学 (Bunseki Kagaku), 66(1) (2017) 49-54. [I.F. = 0.195]
9. 10.Fractionation of radiocesium in soil, sediments, and aquatic organisms in Lake Onuma of Mt. Akagi, Gunma Prefecture using sequential extraction, Masanobu Mori*, Kin-ichi Tsunoda, Shoichi Aizawa, Yoichi Saito, Yuko Koike, Takahiro Gonda, Shunji Abe, Kyuma Suzuki, Yumi Yuasa, Toshihiro Kuge, Hideki Tanaka, Hajime Arai, Shun Watanabe, Seiichi Nohara, Yoshitaka Minai, Yukiko Okada, Seiya Nagao, Science of the Total Environment, 575 (2017) 1247–1254. [I.F. = 4.900]
10. 赤城大沼の水圏生態系における放射性セシウム動態, 新井 肇、渡辺 峻、湯浅 由美、鈴木 究真、田中 英樹、久下敏宏、森 勝伸、角田 欣一、野原 精一、岡田 往子、薬袋 佳孝、長尾 誠也, 第18回環境放射能研究会会議録, Proceedings of the 18th Workshop on Environmental Radioactivity, pp.239 – 244 on March 14 – 16, 2017.
11. イオン排除/陽イオン交換型イオンクロマトグラフィー及び一般水質指標を用いたマレーシア・パハン川の水質評価, 小崎大輔, Norhasmira Idayu binti harun, Mohd hasbi bin Ab. Rahim, 森 勝伸, 中谷暢丈, 田中一彦, 工業用水, No.646 (2018-1) 47-53.

Reviews (総説)

Books (著書)

Reports & Others (報告書)

Patents (特許)

Conference Presentations (学会・講演会発表)

International:

1. Katusya Sagara, Masanobu Mori, Shin-ichi Ohira, Hideyuki Itabashi, “Speciation of inorganic arsenic by an electro-dialytic ion isolation devise”, The 9th Asia-Pacific Symposium on Ion Analysis, Shaoxing, China, 2017/11/22.
2. Meichao Zhao, Nobuhiko Wada, Haruka Shinozaki, Noriaki Seko, Masanobu Mori, Hideyuki Itabashi, “Speciation of palladium in river water and sediment samples in Kusatsu

Hot Spring Area and Shinaki Dam-Lake in Gunma Prefecture of Japan using sequential extraction”, The 9th Asia-Pacific Symposium on Ion Analysis, Shaoxing, China, 2017/11/22.

3. Sakura Yoshii, Masanobu Mori, Hideyuki Itabashi, “Ion chromatography of anions and cations by a series connection of anion-exchange and cation-exchange columns with acidic eluent”, The 9th Asia-Pacific Symposium on Ion Analysis, Shaoxing, China, 2017/11/22.
4. Xiaotong Sun, Huijiao Mo, Ken-ichi Hatano, Hideyuki Itabashi, Masanobu Mori, “Suppression of inorganic arsenic uptake into radish by a mixture of magnetic nanoscale powder and fermented bark amendment”, The 9th Asia-Pacific Symposium on Ion Analysis, Shaoxing, China, 2017/11/22.
5. Daisuke Kozaki, Souma Tanihata, Atsushi Yamamoto, Masanobu Mori, Kazuhiko Tanaka, Development of the Simultaneous Determination of Major Small Ions in Alcoholic Beverages by Ion-exclusion/Cation-exchange Chromatography with Phthalic Acid Eluent, The 9th Asia-Pacific Symposium on Ion Analysis, Shaoxing, China, 2017/11/20-23.

Domestic:

1. 山崎太樹, 小林謙一, 小林健太郎, 杉田剛, 森勝伸, 板橋英之, 陰イオン性色素に対するアミノ基修飾 TiO₂ の吸着及び酸化分解性能, 第 26 回環境化学討論会, 静岡市, 2017/6/7
2. 権田貴裕, 森 勝伸, 角田欣一, 鈴木究真, 湯浅由美, 新井 肇, 渡辺 峻, 久下敏宏, 野原精一, 板橋英之, 逐次抽出法を用いた群馬県赤城大沼の周辺土壌, 底質及び水棲生物に含まれる放射性セシウムの化学形態別分析, 第 26 回環境化学討論会, 静岡市, 2017/6/8
3. 宮坂将平, 長尾誠也, 落合伸也, 鈴木究真, 森 勝伸 群馬県山岳湖沼における放射性セシウムの堆積過程, 2017 日本放射化学年会/第 61 回放射化学討論会, 筑波大学, 茨城県つくば市, 2017/6~8
4. 小林健太郎, 杉田 剛, 小林謙一, 山崎太樹, 森 勝伸, 板橋英之, 液体クロマトグラフ-フローアナリティカルシステムによるアミノ基修飾二酸化チタン担持プレートの水質浄化性能評価, 日本分析化学年会 66 年会, 東京理科大学葛飾キャンパス, 東京都葛飾区, 2017/09/10
5. 長谷川 涼, 相澤省一, 佐藤記一, 角田欣一, 権田貴裕, 森 勝伸, 湯浅由美, 鈴木究真, 渡辺 峻, 新井 肇, 久

下敏宏, 岡田住子, 赤城大沼における放射性セシウムの底質と湖水間の分配係数の測定, 日本分析化学年会 66 年会, 東京理科大学葛飾キャンパス, 東京都葛飾区, 2017/09/10

6. 坂本 翔, 村上正己, 石川原楓光, 森 勝伸, 板橋英之, 関 庸一, 葭田明弘, 正保佳史, 牛木和美, ララサティ マルタ, 新井 淑弘, 金子 伊樹, 陰イオン交換基修飾キャピラリー電気泳動法を用いた唾液試料中のイオン分析, 日本分析化学年会 66 年会, 東京理科大学葛飾キャンパス, 東京都葛飾区, 2017/09/10
7. 権田貴裕, 森 勝伸, 角田欣一, 鈴木究真, 湯浅由美, 新井 肇, 渡辺 峻, 久下敏宏, 野原精一, 葉袋佳孝, 岡田 住子, 板橋 英之, 群馬県赤城大沼の周辺土壌, 底質及び水生生物中の放射性セシウムの化学形態別分析及び動態, 日本分析化学年会 66 年会, 東京理科大学葛飾キャンパス, 東京都葛飾区, 2017/09/11
8. 小崎大輔, 谷畑壮磨, 中村理矩, 山本 敦, 中谷暢丈, 森 勝伸, 田中一彦, フタル酸溶離液を用いるイオン排除/陽イオン交換クロマトグラフィーによる清涼飲料水及びアルコール飲料中の無機及び有機イオンの同時分析, 日本分析化学年会 66 年会, 東京理科大学葛飾キャンパス, 東京都葛飾区, 2017/09/12
9. 森 勝伸, 権田貴裕, 角田欣一, 鈴木究真, 湯浅由美, 新井 肇, 渡辺 峻, 久下敏宏, 野原精一, 板橋英之, 逐次抽出法による化学形態別分析からみる群馬県赤城大沼の土壌及び水生生物の放射性セシウムの動態挙動, 第 54 回フローインジェクション分析講演会, 岡山理科大学, 岡山市, 2017/12/1
10. 小林健太郎, 杉田 剛, 小林謙一, 山崎太樹, 森 勝伸, 板橋英之, 第 54 回フローインジェクション分析講演会, 岡山理科大学, 岡山市, 2017/12/1
11. 森 勝伸, 坂本 翔, 村上 正己, 板橋 英之, 関 庸一, 葭田 明弘, 正保 佳史, 牛木 和美, ララサティ マルタ, 新井 淑弘, 金子 伊樹, キャピラリー電気泳動による唾液中イオン種的高速同時分離, 第 34 回イオンクロマトグラフィー討論会, 広島ガーデンパレス, 広島市, 2017/12/7
12. 佐柄 克哉, 森 勝伸, 大平 慎一, 板橋 英之, 電気透析型イオン抽出デバイスを用いた無機ヒ素の化学形態別分離, 第 34 回イオンクロマトグラフィー討論会, 広島ガーデンパレス, 広島市, 2017/12/8
13. 小崎大輔, 森 勝伸, 山本 敦, 谷畑壮磨, 田中一彦, 酒類中に含まれる主要有機酸、陰イオン、陽イオン及びエタノールの同時分析を目的とした IEC/CEC の開発,

第 34 回イオンクロマトグラフィー討論会, 広島ガーデンパレス, 広島市, 2017/12/8

Other Details (その他)

[Award (受賞)]

1. [平成 29 年度全国水産試験場長会会長賞] 放射研究グループ (群馬県水産試験場: 久下敏宏・鈴木究真・新井肇・渡辺峻・湯浅由美・田中英樹・泉庄太郎, 群馬大学: 角田欣一, 森 勝伸, 国立環境研究所: 野原精一, 武蔵大学: 薬袋佳孝, 東京都市大: 岡田往子, 金沢大学: 長尾誠也), 閉鎖性湖沼における放射性セシウムの動態解明, 全国水産試験場長会, 2017/11/07
2. [学会講演賞] 佐柄克哉, 森 勝伸, 大平慎一, 板橋英之, 電気透析型イオン抽出デバイスを用いた無機ヒ素の化学形態別分離, 第 34 回イオンクロマトグラフィー討論会, 広島ガーデンパレス, 広島市, 2017/12/8

[Invited (招待)]

1. 廃材を用いた環境修復と土壌中の重金属の分析技術特別講演, 第 22 回 徳島地区分析技術セミナー, 徳島大学薬学部, 徳島市, 2018/1/23
2. 分離科学に関するこれまでの歩み, 平成 29 年度高知分析技術懇談会, 高知大学, 2017/12/16.
3. シンポジウム招待講演, “ジルコニア固定相を用いるイオンクロマトグラフィー”, 日本分析化学第 66 年会, 東京・葛飾, 2017/9/12
4. Keynote lecture (invited), “Analysis of weak acid by combination of an electro-dialytic salt removal and ion-exclusion chromatography with corona charged aerosol detection”, 2017 Asia / CJK symposium on Analytical Sciences, Tokyo, 2017/9/12

[News Article (報道記事)]

[Host of congress (学会・シンポジウムなどの開催)]

1. Committee in the 9th Asia-Pacific Symposium on Ion Analysis, Shaoxing, China, 2017/11/22. (日本代表)

[Outside Committee (学外委員)]

1. 日本分析化学会分析士・イオンクロマトグラフィー分析士問題作成委員)
2. Journal of Flow Injection Analysis 編集委員
3. 日本分析化学会中国四国支部常任幹事
4. イオンクロマトグラフィー研究懇談会 委員長
5. 日本分析化学会 正会員

6. 土木学会 正会員
7. 日本化学会 正会員
8. 日本鉄鋼協会 正会員
9. 環境科学会 正会員

[Committee Activity outside the cluster (部門選出の全学委員)]

1. 土佐さきがけ研究プログラム・グリーンサイエンス副コース長

[Committee Activity within the cluster (部門内での活動)]

[Regional Contribution (地域貢献活動)]

[Activity on International Exchange (国際交流活動)]

[Outside Lecture (講演)]

[Others (その他)]

■ YAMADA Kazuhiko 山田 和彦

MEXT (科研費)

Any Other Funds (その他の研究経費)

[受託研究]

[共同研究]

[奨学寄附金]

[学内競争的経費]

[学会・シンポジウムなどの開催]

[学外委員]

1. 運営委員(高分子学会 NMR 研究会)
2. 運営委員(固体 NMR・材料フォーラム)
3. 日本核磁気共鳴学会 評議員

[部門選出の全学委員]

[部門内での活動]

[地域貢献活動] 公開講座、市民講座、出張講義など

[国際交流活動]

[講演]

[学内の研究経費] 拠点プロジェクトなど

[その他] 海外研修、在外研究、現地調査など

Journal Publications (論文)

Reviews (総説)

Books (著書)

Reports & Others (報告書)

Patents (特許)

Conference Presentations (学会・講演会発表)

International:

Domestic:

1. 中井克哉, 今村和也, 恩田歩武, 山田和彦, 柳澤和道, 水蒸気雰囲気下での非晶質シリカの結晶化, 2017 年度セラミックス総合討論会, 高知, 9 月 29-30 日 (2017)
2. 中井克哉, 恩田歩武, 山田和彦, 柳澤和道, 過熱水蒸気による固相反応の促進 ---非晶質シリカの結晶化におよぼす NaCl の添加効果---, 無機マテリアル学会第 135 回学術講演会, 熊本, 11 月 16, 17 日 (2017)
3. 中井克哉, 今村和也, 恩田歩武, 山田和彦, 柳澤和道, 塩化ナトリウムを添加した非晶質シリカの結晶化におよぼす水蒸気導入の影響, 高知化学会第 30 回研究会, 高知大学, 8 月 26 日 (2017)
4. 中井克哉, 今村和也, 恩田歩武, 山田和彦, 柳澤和道, 非晶質シリカの結晶化 ---水蒸気導入による加速---, 第 24 回ヤングセラミストミーティング in 中国, 広島大, 12 月 9 日 (2017)

Other Details (その他)

[受賞]

[研究助成]

[報道記事]

Journal Publications (論文)

1. Daisuke Kozaki, Norhasmira Idayu Binti Harun, Mohd Hasbi Bin Ab. Rahim, Masanobu Mori, Nobutake Nakatani and Kazuhiko Tanaka, Determination of Water Quality Degradation Due to Industrial and Household Wastewater in the Galing River in Kuantan, Malaysia Using Ion Chromatograph and Water Quality Data, *Environments*, 4, 35 (2017)
2. Tomoharu Fujiyoshi, Takahito Ikami, Koji Kikukawa, Masato Kobayashi, Rina Takai, Daisuke Kozaki, Atsushi Yamamoto, Direct quantitation of the preservatives benzoic and sorbic acid in processed foods using derivative spectrophotometry combined with micro dialysis, *Food Chemistry*, 240, 386 (2017)

Conference Presentations (学会・講演会発表)

International:

1. Daisuke Kozaki, Norhasmira Idayu binti Harun, Mohd Hasbi bin Ab. Rahim, Masanobu Mori, Nobutake Nakatani and Kazuhiko Tanaka, Utilization of Ion Exclusion Chromatography on Water Quality Assessment of Major Rivers in the Central Part of East Coast in Peninsular Malaysia, 2017 Asia / CJK symposium on Analytical Sciences, Tokyo University of Science, Tokyo, JAPAN (2017/9/9-10)
2. Daisuke Kozaki, Souma Tanihata, Atsushi Yamamoto, Masanobu Mori, Kazuhiko Tanaka, Development of the Simultaneous Determination of Major Small Ions in Alcoholic Beverages by Ion-exclusion/Cation-exchange Chromatography with Phthalic Acid Eluent, The 9th Asia-Pacific Symposium on Ion Analysis, Shaoxing, China, (2017/11/20-23)

Domestic:

1. 小崎大輔, 谷畑壮磨, 中村理矩, 山本 敦, 中谷暢丈, 森 勝伸, 田中一彦, フタル酸溶離液を用いるイオン排除/陽イオン交換クロマトグラフィーによる清涼飲料水及びアルコール飲料中の無機及び有機イオンの同時分析, 日本分析化学会第 66 年会, 東京理科大学葛飾キャンパス (2017/9/9-12)
2. 小崎大輔, 森 勝伸, 山本 敦, 谷畑壮磨, 田中一彦, 酒類中に含まれる主要有機酸、陰イオン、陽イオン及びエタノールの同時分析を目的とした IEC/CEC の開発, 第 34 回イオンクロマトグラフィー討論会, 広島ガーデンパレス (2017/12/7-8)
3. 小崎大輔, [受賞講演] 環境水の水質評価を可能にする各種イオンクロマトグラフィーの開発と応用に関する研究, 第 34 回イオンクロマトグラフィー討論会, 広島ガーデンパレス (2017/12/7-8)

Other Details (その他)

[Award (受賞)]

1. 2017 年イオンクロマトグラフィー研究懇談会奨励賞, 小崎大輔, 環境水の水質評価を可能にする各種イオンクロマトグラフィーの開発と応用に関する研究, 2017/12/7, 広島